

○議長（石橋英和君） 順番5、21番 岡君。

〔21番（岡 弘悟君）登壇〕

○21番（岡 弘悟君） 通告に従いまして一般質問を行います。

お題が二つです。一つ目のお題、「観光資源の創造と既存の観光資源に付加価値を」です。

観光名所は、全国の市町村において数の違いはあるにしても何箇所かはあると思います。しかし、その多くが歴史的、文化的にすばらしいものであったとしても、他府県からの観光客にとって魅力のあるものとは限りません。

実際、自分たちが観光する際、行き先を決めるのに、全国の市町村にある、あまり知られていない観光名所を訪れる計画を立てるでしょうか。遠方からの観光客に、見てみたい、行ってみたいと衝動を与えるほどのインパクトがある観光資源を抱える有名都市は別とし、全国の多くの市町村にそれほどの観光資源があるでしょうか。本市においても、歴史的・文化的にすばらしい価値のある名所、遺跡は多数存在しますが、多くの観光客に興味を持ってもらえるインパクトがあるとは思えません。

そこで、ないなら創造してはいかがでしょうか。新たな観光資源の創造と既存の観光名所に付加価値をつけて、全国の多くの方に興味を持っていただけるように。

よって、以下質問いたします。

①付加価値の創造については、フィルムコミッション事業が有名ですが、本市でこの事業を実践するのは難しいと思われます。しかし、CM撮影、さらにアニメーションなどの中でインスピレーションを与え、舞台のモデルになることは可能と考えます。

特に、アニメーションのフィルムコミッション事業は、低予算で多くの人に一度にインパクトを与えることが可能と思われます。ネットを媒体として、これらの分野へのフィルムコミッション事業を行ってはいかがでしょうか。

②南海電鉄を利用し、なんば方面から高野山に向かう場合、橋本駅で乗り換えが必要な場合があります。観光客には不便でも、本市にとっては多くの観光ビジネスの可能性を広げてくれると思いますが、現在、市として観光客がストップオーバーできるような事業を行っていますか。

③岡山県にある道の駅「久米の里」にあるZガンダムをご存じでしょうか。ゼットガンダムではないですよ。ゼータガンダムです。岡山県とZガンダムは何の関係もありませんが、モビルスーツ一体の展示でものすごい集客力があるのは事実です。観光客の多くが、「なぜここにガンダムが」と思いながら、遠方から多くの方が見に来られます。

このように、なければ知恵と行動で観光資源は生み出せると考えます。本市も観光資源開発プロジェクトを立ち上げてはいかがでしょうか。

大項目の二つ目です。地域内インフラの補修と整備について。

本市には100を超える区や自治体が存在しますが、各地域の主要道路、生活道路、小さな橋などが劣化、老朽化し、近い将来、補修・修繕・かけ替え等の問題が生じると予想されます。実際、いくつかの地区内の道路舗装が劣化し、再舗装の必要がある箇所が見受けられます。このような地域内インフラの整備、

補修について、どのように考えていますか。優先順位や予算確保の問題など、クリアしなければならない問題は数多くありますが、地域インフラ整備にかかる予算を別枠で考え、年次計画を立て、実施していかなければいけない時期に来ているのではないのでしょうか。

よって、以下質問いたします。

①地域の道路や橋の老朽化等、どのように調査していますか。そして、その結果など、わかる範囲でお教えてください。

②地域のインフラ整備にかかる予算はいかほどと考えておられますか。また、現状どのように優先順位をつけて施工しておられるのか、お教えてください。

③地域インフラにかかる予算を別枠で考え、複数年計画で実行すべきと考えますが、いかがでしょうか。

以上です。明確な答弁、よろしく願いいたします。

○議長（石橋英和君）21番 岡君の質問項目1、観光資源の創造と付加価値に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（大倉一郎君）登壇〕

○経済部長（大倉一郎君）観光資源の創造と既存の観光資源に付加価値を、についてお答えをします。

まず、フィルムコミッションについて説明をいたします。フィルムコミッションとは、映画やテレビ番組、CMなどの撮影場所誘致やエキストラ手配などの撮影支援を、行政と観光協会、地域住民が一体となって取り組む機関であり、撮影場所となることで、地域活性化や観光振興の起爆剤となることを目的としています。

現在、全国各地でフィルムコミッション事業への取り組みが行われており、本市も和歌山県観光連盟会員として同連盟が2006年に発

足した「わかやまフィルムコミッション」に参加し、映画、テレビやコマーシャル撮影のロケ地情報提供などの誘致活動を積極的に行っています。本市も既にインターネット等を通じてジャンル別に25件のロケ地情報を推薦、提供しています。

かつて本市でも、高野口小学校でNHKの朝の連続テレビドラマの撮影や、橋本市民病院の病室を使って音楽ビデオの撮影が行われたことがあります。

しかしながら、このような実際の撮影隊の誘致に際しては、宿泊先、撮影許可やエキストラ手配等、さまざまな支援が必要であり、大規模な撮影誘致には本市の現状の取り組みとして限界があります。

このような大規模なものだけではなく、フィルムコミッション活動の一つとして、アニメーションの舞台モデルとして実在の古民家や学校などを素材提供するものがあり、人気アニメに取り上げられた場合には、ファンがそのモデルになった場所を訪れるなど、小規模の取り組みで大きな波及効果を期待できます。

本市においても、わかやまフィルムコミッションなどを通じて、素材情報の提供機会を創出し、アニメ原作者や制作会社へのアプローチを図ってまいりたいと考えています。

次に、橋本駅におけるストップオーバー、途中下車についてですが、現在のところ、鉄道利用客を途中下車させる取り組みは特に行っていませんが、橋本駅前の観光案内所には、電車の乗り換え時間待ち等の理由により、30分程度で橋本周辺の観光する場所を尋ねられる問い合わせがたびたびあります。観光客に限らず、多くの人が橋本駅でおりて、駅前やその周辺を周遊できるような仕掛けを検討し、人が集まる魅力づくりを企画してまいりたいと考えています。

次に、観光資源開発プロジェクト立ち上げの件ですが、久米の里の「Zガンダム」や紀の川市の「たま駅長」など、従来の名所旧跡や自然などの観光資源ではなく、インターネットなどの情報発信を通じて観光客の注目を集めたものが観光資源となり、地域の活性化に貢献している事例があります。特別な観光資源がない本市においても、市民の方々のアイデアを取り入れ、斬新な観光資源の創出を図っていくことは重要であると認識しています。

失礼しました。答弁もれがあります。もうしばらく、すいません。

このことを事例紹介している慶應義塾大学環境情報学部卒業生の論文「オタク心が街を救う」では、アニメなどのキャラクターに特化した観光資源開発により、全国に100万人以上いると言われていたオタクと呼ばれるサブカルチャーファンの集客、消費活動を促すことで、特に観光資源がないまちの観光振興、地域活性化の可能性がうかがえます。

本市としましても、これらの情報を参考にして、あらゆる面から観光資源を見直し、今後、必要に応じてプロジェクトの立ち上げも検討していきたいと考えています。

以上です。

○議長（石橋英和君）21番 岡君、再質問ありますか。

21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

今、部長のほうからも答弁いただいたんですけども、僕もここで書かせてもらったんですけども、本市でフィルムコミッション事業を行うのは、ちょっと難しいのかなというのは、もう以前から感じていました。以前も、もう4年ぐらい前になるのかな、経済建設委員会のほうで富士吉田市のほうを視察させてもらったんですけども、そのときにフィルム

コミッション事業と、その他視察する目的があつて行ったんですけども、自分が富士吉田市で感じたことは、結局は、富士吉田市でフィルムコミッション事業が成功しているというのは、やはり人。あと観光ロケーションで富士山。つまり、撮影して、見ている側が、ここは富士山のある市なんだなど。つまり、富士山がシンボリックな役割をしているからフィルムコミッション事業はたくさん行われるというのは、その市の方、担当者の方もおっしゃってました。その中で、やはりフィルムコミッション事業を成功させるには、多くのスタッフを支える、さらにもう一つ、人員が必要やと。その人員を、富士吉田市は自分らでプロジェクトを立ち上げて、行政の中でそういった課をつくって、それで誘致をして、さらにその中から多くの人を出している。かなり大規模な力が必要なんだというのは正直感じたんです。

フィルムコミッション事業については、和歌山県も以前から多く行われてきているんですけども、実際橋本市でも、ネット上でいろいろ紹介していただいているのは知っているんですけども、ちょっと部長にお聞きしたいんですけども、その中で、そのフィルムコミッション事業をいろんな形で行っているんですけど、本市で近年、フィルムコミッション事業が誘致されるような話は実際あつたんでしょうかね。それ、一点ちょっとお聞きします。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）最近、そういうフィルムコミッション事業の誘致をされるという事業があつたのかなというご質問ですけども、最近ではありません。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）多くの市町村がフィルムコミッション事業をやっているのは、皆さ

んご存じやと思うんですけども、多くの市町村がほとんど成功していない。成功していないとか、来てもらえないのが実情なんです。それは、選ぶ側が人と物の下調べもするし、そのロケーションを選ぶというのがあるので、なかなか難しいんですけども、ここで僕、書かしてもうて、先ほどもお話しさせてもらったんですけども、今、ちょっと同僚議員と市長ほか何名かには資料を渡しているんですけども、アニメーションのフィルムコミッション事業というのは、ここの資料を見てもわかるように、これ、一番上につけているのは飯能市。これ、アニメの誘致で、自分のところで、これは市のホームページです。ここここがアニメの中で使われました。その中で、こういったものがこのシーンであるという、地図まで描いて観光スポットにしておるんです。

そのもう一枚めくってもらったら、これは竹原市なんですけども、これ、左側に載っているのが、これは実際の写真です。そして右側がアニメに使われたシーンということで、これは市のホームページに載っているんですけども、実際、これを見ていただいているように、何ら特別なもともとの観光名所であったかといったら、そういうわけじゃないんです。ただの古民家で、ただと言ったら失礼ですね。古民家であったり、普通の線路の風景であったり、道であったり、あと、地元では有名であろうと思われる神社仏閣が載っていたり。実際、橋本市もそういったものはたくさんあると思うんですけども、そういったものが、こういったアニメーション事業に使われることによって付加価値を得て、多くの方が実際にこれを見に来られているというのは、今ひそかなブームと言ったら失礼ですけども、ネットの中で調べてもらったたくさん出てきます。

僕もいろいろ調べて勉強になったんですけども、アニメのこういったところをめぐる方たちは、こういったアニメの名所になったところを聖地と読んであります。聖なる土地。自分らはそれを、聖地を巡礼していると。聖地巡礼という形でネットにいろんなサイトがあって、自分たちはここへ行ってきたよ、こんなアニメのところはここで撮影されたんだよといった、自分らで情報を広げていって、まあいけば、情報がどんどん一人歩きして、それがどんどん人を呼び寄せる原動力になっているという。

自分がその観光資源に対してターゲットにしたいのは、数パーセントの人たちです。97%、98%の人は、何やそれと。じゃあ2%の人、3%の人が、いや、行ってみたいと。その3%の人が、例えば近畿圏内の3%ってどれぐらいおるんでしょうね。僕、途方もない数になると思いますよ。

その中で紹介したい、まだ、もういろいろ紹介したいんですけど、埼玉県は県のホームページでもやってます。自分たちの県はもうアニメの聖地を巡りに行こうと。もう県を挙げてアニメの誘致をやっている話がたくさん載っているというぐらい、この聖地巡礼に他府県が力を入れてきているのは実際事実です。なぜかという、やはり普通のフィルムコミッション事業じゃなくて、その場面の切り売りができるというところが大いに強いと思います。全体像がなくなると、切り売りして、その実在する部分をアニメに登場させたら、後は別に空想でもええんです。別段。まちそのものの、全く一緒のものを描いてやるわけではないので。

だから、橋本市でもそういった切り売りでやっていける場所というのは、僕はたくさん存在すると思うんです。それはもう観光資源で、昔からいろいろ発掘されているという話

も、いろいろ自分も聞いて知っているんですけども、本市でもしフィルムコミッション、そして観光資源の付加価値をつけるのであれば、そういった切り売りのできる、こういったアニメーション事業についてやっていくのが、一番近道じゃないかなと思って質問してもうてるんですけども、どう言うたらいんでしょう、今、前向きな答えはいただいているんですけども、実際は、本当はすぐにでもやってもらいたい。何でかという、これ、きのうたまたまなんですけど、朝、朝日新聞を読んでいると、和歌山版に和歌山市のほうでも、どんどんアニメのフィルムコミッション事業に力を入れてやっていきたいので、市民の皆さまにそういった場所がないのかを提供していただく資料を、情報を教えていただきたいというニュースが載ってました。

実際、今、本当に目先のきくと言ったら言葉は失礼ですけども、本当に観光資源に対して付加価値をつけようとしているところは、実際もう動いています。どんどん動いています。その中で、やはり本市は検討するんじゃなくて、そういったプロジェクトチームを立てるべきやとは思いますが、その辺をちょっと、もう一度お聞かせください。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）最初の答弁にも私、答弁させていただきましたけども、いろんな情報を参考として、あらゆる面から観光資源を見直しながら、今後、必要に応じてプロジェクトの立ち上げも検討してまいりたいと考えます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）今後、そういった答弁にはなると思うんですけども、昨年、日本の邦画で、興行収入が5位に入っているアニメ「おおかみこどもの雨と雪」という映画なんですけども、ご覧になられた方は、まあ少

ないのかな。自分はこの映画の監督の、細田守監督というんですけど、この監督の映画が非常に好きで、日本では宮崎駿監督が非常に皆さんご存じだとは思いますが、この細田守監督の作品が非常に好きで、自分はよく見るんですけども、去年も、昨年公開とともに見に行ったんですけども、それがたまたま3月か2月の朝日新聞で、「おおかみこどもの雨と雪」のモデルになった、お母さんと子ども2人が人目を忍んで田舎の家で住む話なんですけども、その田舎の古民家に、公開から何千人か人が押し寄せてきていると。そして、古民家は個人の所有物であったんですけども、もう高齢の方で、保存に非常に困っているというお話を聞いたら保存運動が起こって、自分らの手でどないかしたいと。それで県も乗り出していっているという話を聞いたんですけども、それほど日本のアニメーションというのは、観光に対して非常に、観光というかインスピレーションを与えて、そして人が来たいという衝動を与えるには非常に力になるんやと思います。

特に、ここで気になったのは海外からのお客さんも多いというんですよ。外国人の方もその古民家を訪れたいと。それはなぜかというと、細田守監督が海外でも実は非常に有名な方なんですね。非常に評価が高かった。以前の映画も非常に評価が高かったんですけど、そういった関係で、向こうのオタクと呼ばれる方も、日本に来たらずいとも見てみたいと。つまり、外国人観光客の誘致にも非常に役に立っていると。

こういった実際の実例もあるので、できたら将来的に、もう今、部長答弁いただいたので、それ以上の答弁はあれでしょうけど、できたら本当に本腰を上げて、こういったことをやっていただきたいんですけども、副市長、どうでしょうか。

○議長（石橋英和君）副市長。

○副市長（清原雅代君）私自身、あまり情報として持ち合わせておりませんのであれなんですけれども、今聞かせていただいたお話であれば、そんなに費用もかからずに、広く活用いただければPRしていけるということですので、また市としてどの程度取り組んでいけるのか、どういったことをすれば効果的なのかということを検討してまいりたいと思います。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。言い出したら僕、こういう話大好きなので、何ぼでもしゃべるんですけどもね。

つい最近では、僕このアニメはちょっと知らんですけども、「ガルパン」というアニメがあって、これはもうヤフーのネットニュースでちょっと見て、すごいなと思ったんですけど、その舞台となった茨城県の大洗町には、さっきお話させてもうた聖地巡礼が、もう既に起こっているそうです。それにさらにすごいのが、自衛隊とコラボしてアニメをつくっているんですけども、その自衛隊の教養DVDが発売初週で1万5,000枚を売り上げて、総合首位に輝いたと。DVDの売り上げですよ。もうアニメの力で、いきなり自衛隊の教養ビデオが1位になる。そういうたら、このアニメの中で出てくるらしいです。それをファンの方がそれを見てみたいと。だから、発売された途端にアニメのファンの方が皆さん買うといましたよ。DVDが1位になっちゃうんですよ。アニメの影響で。

それぐらい、何ていうのかな、今、僕らの世代というのはアニメ世代と言われる世代なんですけども、それよりも本当にコアな世代というのかな。その方たちが、本当に観光としてそこを訪れたいと思っている方が、全国に数十万人規模でおるんやなというのが、実

際事実、この数字を見ておったらわかるんで、ぜひともこういった事業というのは、本当に目先が大事やと思うんです。もう既にいるんところで始まって、ちょっと乗り遅れ感があるのかなという気もするんやけども、でも、今からでも遅くないんで、ぜひともこういった事業を始めて、そして、橋本市の既存の文化財等を見てもらうというのが一番だと。

僕は、何もアニメのところに撮影になったから見てもらいたいだけじゃないんですよ。やはり、橋本市でこんないいところがあるんやというのを見てもらうためには、よそから来てもらう何か特別な理由が要るんじゃないかという話をしているんです。橋本市にいっぱいいいところあるやないかと市長もよくおっしゃるし、皆さんおっしゃるのもわかる。僕も、それは橋本市で住んでおるんでよくわかってます。ただ、自分が他府県の人間になったときに、果たしてじゃあそれを見に来ますかと。実際、事実、今の観光の人数を見たら、実際歴然とわかってますやん。見に来られてませんやん。それほどね。全国規模で来られているかといったら、来られないですよ。

さっきも言うたけど、神戸とか京都やったら多くのものがあるので、集客力を持ってます。集客力のないところは、つくるために付加価値をつけようじゃないかという取り組みなので、ぜひとも、これは特に若い子は、市役所の中にもこういったことに興味ある子がたくさんいると思うので、そういった方に声をかけたら、僕なんかよりもっと情報を持っておると思うので、一度いろいろお話聞かれたらええし、僕も聞きたいなと思っておるんで、ぜひともこの取り組みについては、よろしくお願いします。

じゃあ次、2番です。

すいません、小項目の2番なんですけども、

南海電鉄を利用して、これ、全部じゃないんですけれども、乗り換えせなあかん電車というのがあるんですけれども、僕、先ほど部長の答弁もらったんですけれども、僕、何でこれ書かしてもらったかという、以前も同僚議員が質問されておったと思うんですけども、おりてもらおうという行為は非常に難しい。その駅で電車がとまって、目的地があつて、その途中でとまる駅におりてもらおうというのは非常に難しいことやと思うんです。自分もそうやと思うんですよ。途中下車するというのはなかなか難しいけども、強制的におりてもらっておるんでしょ、もう既に。

そしたら、おりたら何かないのかなと思うのが人ですよ。たとえそれが接続に、例えばですよ、例えば10分しかなかったら、なかなか見れないかなというような考え方もあるかもしれないけども、例えば、どうせおりたんやったら、ちょっとこんなあるらしいでと思つたら、1時間、次の電車乗ろうかなと思つてもええと思うんですよ。自分やったら結構旅行に行つたらそんなことになつたりするんですけども、結構旅行好きなので。

そしたら、たくさんの方がおりられているのに、ただ見るとこないんで駅でおつただいたつて、橋本市にとって何のメリットもないと思うんですけどね。やっぱり、おりてもらつたら駅の周りに何かあれば、駅におりてもらつて、ほんで観光してもうて、コーヒー1杯でも飲んでもうたら、橋本市にとってはプラスやと思うんですけどもね。これは例えですよ。もっと大きい事業ができればそれはいいんですけども、それを、このおりてもらおうということが、一番大事な作業を、もう既にせざるを得ん状態やのに、何でせえへんのかなと思うんですよ、僕。もう既に、一番難しいステップがそこにできておるんですよ。

行政でそんな言葉を使わないんかもしれな

いんですけど、僕ら商売人からしたら、ビジネスチャンスですわ。こんな大きなビジネスチャンスがあるのに、何でせえへんのかなと普通に思うんですけどもね。

だから、やっぱり不便やなだけで終わらさんじゃなくて、その不便さは橋本市にとっては、実はチャンスなんやという発想の転換というのかな、その発想の転換を持たんと、いつまでたつてもお客さんは素通りしてしまうというか、観光客は素通りしてしまうと思うんですけども、だから、今ないというのであれば、これは3番と連動して言うんですけど、これは岡山県の道の駅にある、久米の里にあるZガンダムなんですけど、これ、資料にも写真付けさせてもらったんですけども、これ、高速道路を走っていて、中国自動車道の院庄インターというところをおりたらすぐの道の駅なので、結構、正直な話、おりることはあまりないんですわ。鳥取とか、有名な温泉に行かれる方は、前は必ず通りはるかなとは思うんですけども、別段その院庄インターでおりて、もちろん失礼なことを僕、今は話しているんであれなんですけども、院庄に用事ある方も、見たいものがある方もいらっしゃるとは思うんですけど、ほとんどの方は恐らく院庄インターでおりる用事はさほどないと思うんです。でも、やっぱり僕みたいにこういったガンダム世代の人間は、やっぱりちょっと見てみたいなと思つておりてしまうんです。実際。

ほんで、この話をしていたら、市役所の方も、いや実は僕も行ってきたよという方、ちょっといらっしゃつたので、えってびっくりしたんですけども、これも、ここに、資料にも書かせてもらったんですけども、別段、岡山県にこのZガンダムが何か関係あるんかといつたら、別にそんな関係はないんですよ。ただ、このつくられた、これは行政がどうこ

うした話じゃなくて、個人の方が個人でつくって寄附されたというだけの話なんやけども、これが実際、身長7m、これはもう自ら設計書を書き、たった一人で制作したもの。これまたおもしろいのが、張りぼてではなくて、ちょっと油圧とか通って、もしかしたら動くんじゃないかというような部分があるんです。コックピットがちょっと開いたりだとか。そういったところがファンの中で受けて、僕も実際そうです。実際は二足歩行はできないらしいんですけども、いや、動くらしいでと。別に動いておるところは見えてないんですよ。それだけでもうね、家族連れのお父さんが喜んでおる。子どもらわからんですよね。世代じゃないので。

でも、ちょうど僕ら世代から下、上前後ぐらいですわ。ガンダム世代と呼ばれる世代は、もう見に行きたくて僕は仕方がなかったんで、実は会派でも行ってきたんですけども、何ていうんでしょうね、世代によって感じることは違うのかなとは思うんやけども、ただ、もうほんまに行ってもうたらわかるんですけど、多くの方がほんまにこれ目的で院庄インターでおいて、そこで道の駅で写真を撮って、さらにその道の駅の横に岡山のB級グルメで出している料理があるんですけども、その料理を出して、商売がうまく成り立っている。さらに、せっかくおりたんやから近くに何かないかなと思ったら掲示板があって、近くの観光名所を載せておるんです。そしたらまあだいたい20分圏内で行けるから、ちょっと行ってみようかなという気にもなって、結構見ちゃうんですね。

だから、今、橋本市の抱える同じ状況で、高野山に対して行く観光客の方に、素通りだけされてしまうんじゃないかというような不安が、よく市民の方からも聞くんやけども、すごいこれ、見たら下らんのかなと感じる方

が九十数パーセントおるんやと思うんですけども、そのうちの、さっきも言いましたけど、5%でも3%の人が、いやこんなあったら見てみたいでと思ったら、さっきも言いましたけど、どれだけの人数になるんでしょうかね、というのを僕は言いたいんです。だから、そういったものをつくらなあかんの違いますかと。100人おって、半分の人がええというようなものをつくるのは無理です。そうじゃなくて、数パーセントの人が、それは絶対見てみたいと、それはちょっと欲しいなと思ったら、商売でいうたら大成功でしょう。その発想の転換をして、やはりこういった、何やこれ、と思われる世代もおるかもしれんけども、こういったものをつくっていかなあかんので、さっきも言いましたけども、アニメといい、こういったものといい、本当に目先をきかせて、本当に今すぐプロジェクトを立ち上げてほしいと思います。

延々と一人でしゃべり続けたので、これはもう要望でいいんですけども、本当に自分の思いというか、ずっと思ってます。橋本市でどないやったら観光客の方、来てくれるんやろう、多くの方が来てくれるんやろうとずっと考えてます。商工会等ほかの団体でもいろんなお話、若い子らも含めて、年配の方も含めて、いろんなお話するんですけども、やはり、なかったらつくっていかんとしゃあないでと。じゃあ、何をつくるのかというのが一番難しいんですけども、それはこれから行政はじめ、行政だけに任せ切りという話じゃなくてね、そういった中で、皆でじゃあ何やっていくんやというのを立ち上げるプロジェクトというのをぜひとも早急に立ち上げて、そして、今せっかくこうやって高野山に外国人も来られているんで、外国人の方にも見てもらえるような、観光のできるジャパンカルチャー的なものやっつけていきたいと自分自身も

思っていますので、どうぞプロジェクトの早期の立ち上げを要望いたしまして、一番目の質問を終わります。

○議長（石橋英和君）この際、21番 岡君の質問項目2の答弁を保留し、午後2時30分まで休憩いたします。

（午後2時13分 休憩）

（午後2時30分 再開）

○議長（石橋英和君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

次に、質問項目2、地域内インフラの補修と整備に関する質問に対する答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君）各地域の道路や橋の老朽化等の調査とその結果についてのご質問にお答えします。

道路橋梁につきましては、国の長寿命化修繕計画策定事業を活用して、平成21年度から23年度にかけ、347の橋梁について老朽化等の調査を行い、その結果をもとに、平成24年度において橋梁長寿命化修繕計画を策定しました。

今後は、予算の許される範囲ではありますが、この計画に基づき、国庫補助事業を受けながら修繕を進めてまいります。平成25年度においては、まず、修繕に向けての詳細設計を予定しています。

道路舗装については、本年度において一部調査を実施し、老朽化の状況等の把握並びに修繕計画の検討を行う予定です。

次に、各地域のインフラ整備にかかる予算と優先順位をつけて計画しているか、のご質問についてお答えします。

平成25年度当初予算では、道路維持に要する経費として約1億700万円、それ以外に市道

改良工事費や舗装工事費として4,000万円を、公共排水に要する経費として約1,800万円等をそれぞれ計上させていただいています。

優先順位については、定期パトロール等で発見した危険性の高い箇所や地元要望をいただいた箇所のうち、緊急性の高い箇所から実施しています。

次に、地域インフラにかかる予算の別枠並びに複数年計画についてお答えします。

橋本市においては、現在、公共下水道、都市公園、市営住宅、道路橋梁のそれぞれ長寿命化計画を策定しました。これらは国庫補助の対象となり、今後、計画的な修繕を実施してまいります。この四つの長寿命化計画以外のものも含めて、計画的修繕については、関係各課が連携し年度ごとの事業費の調整や予算の平準化を図りながら、厳しい財政状況の中ではありますが、別予算枠として1億5,000万円以内を目途に進めたいと考えていますので、ご理解をお願いします。

○議長（石橋英和君）21番 岡君、再質問ありますか。

21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございました。

小項目の1番で、答弁いただいたのが347の橋梁というお話をお聞きしたんですけども、ちょっと僕、不勉強で教えていただきたいんですけども、橋本市内で各地区の中で小さい橋がいっぱいあると思うんですけど、そういったものも全部含めて347という数字なんですか。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）市内にある橋梁の中には、いわゆる市道認定されていない道ですとか、その他のいわゆる水管橋ですとか、そんなものもありますけども、市道認定されている道路の橋梁のうち、主なものについて

347橋の調査をしたということでございます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）詳しい結果で、その中で、今後大規模な補修もしくは何らかの修繕をしていかなければいけないだろうというのは、いくつか出てきているんでしょうか。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）いわゆる今すぐ補修・修繕しなければというものはございませんでした。ただ、今回、計画をつくりましたのは、国のほうも、日本全国そうなんですけども、耐用年数がそれぞれのインフラでも迫ってきているという中で、計画を立てることによって国庫補助対象になるというところで、その根拠としましては、予防修繕をすることによってトータル経費の削減ができる、そういう計画を立てなさいと。立てたものについて補助金をあげますよということですので、そういった趣旨で計画を策定いたしました。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）その中で、橋本市で大きな橋梁といえば、橋谷大橋と、いくつかあるんですけど細川大橋、これ、将来的には耐震等何らかの形をとっていかなあかんとは思いますが、それについてはどのようにお考えなのでしょう。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）今回の長寿命化計画というのは、あくまで延命化、あるいは補修ということで、耐震に対する備えというのは、これは別でございます。あくまで橋梁そのものの長寿命化ということですよ。

ただ今ご指摘のあった橋梁等も含めて、大規模な橋梁、どれから手を付けていくんかということになるんですけども、この順位決め方については、まず、その橋の損傷度合、これが一つ大きな要因。もう一つのファクターとしては橋の重要性。この重要性というの

は、いろんなとらまえ方がございます。橋そのものが非常に大きい小さいということもあるでしょうし、通行台数、あるいは万が一のことがあった場合に、その橋のかかっている道路以外のものにどんな影響を与えるか。例えば、鉄道の上にかかっている橋、これは橋そのものに万が一ありますと、鉄道そのものにも影響を及ぼす。あるいは、橋谷大橋なんかですと、万が一、橋に何かのそういった支障が生じますと、下に371号、国道が通っておりますので、そっちのほうに大きな影響がある。あるいは、消防のほうからの視点から見て、どこの路線が重要なんだろうかと、そういったいくつかのファクターを点数化して、緊急度合いを定めて一応の順位付けをして、そういった緊急性の高いところの中から、予算の許す範囲で計画的に補修をしていきたいというふうに考えています。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

橋はだいたいわかったんですけど、あと、地域の中の道路についてもお聞きしたいんですけども、例えば、自分は御幸辻で住んでるんですけども、その御幸辻内の、例えばですよ、地域の主要道路の舗装がかなり傷んでているのも実際事実なんです。それは、御幸辻にこだわることなく、自分は市内で仕事をしておるんですけども、市内を軽四で走っていると、大分舗装されてから年数がたって、再舗装されてないなというところが多く見受けられるんですけども、そういったものというのは、地域からの要望がないと再舗装とかはしないんでしょうか。それとも、道路管理者である、やはり市道であれば市が何年かに一度、舗装が傷んできたら替えていかなければいけないと思うんですけども、そういったところが大きな市道に関しては行われているんです

けども、地域内での主要道路、地域の方が主に通る道路に関しては、あまりそういった舗装とかがされてないように思うんですけども、その点はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）一番古い舗装なんかで、昔やったらコンクリート舗装から始まって、ただし、概ね50年、今まではたたなかった中での時代でしたので、まずは地域から要望いただいた中から、緊急性の高いものというのを選んで実施していたのが実情です。それから、それ以外には、道路管理者としてやっぱりパトロールする中で危険やというふうに判断しましたら、当然、地域の要望がなくても今までは実施してまいりました。

ところが、すべての舗装が概ね耐用年数が過ぎつつある中で、そういったことではもう立ち行かんだろうというところで、国のほうもそういった、今までは全く補助対象にならなかったような舗装の打ち替え等についても、一定の要件さえ満たせば一部補助してあげるよということになりましたので、先ほど答弁いたしました中でも、今年、主にまずは交通量の多いところからになりますけども、舗装のいわゆる長寿命化計画的な計画を立案して、計画的に国の補助もいただきながら予算の範囲内で執行していきたいということで、今までとは若干スタンスを変えて、やっぱり道路管理者としてやるべきところをやっていくというふうなスタンスに、まあ一気には無理なんですけども、徐々に切り替えていきたいなというふうに考えます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。内容は非常によく理解できるんですけども、ただ一点、気になるのが、本市の市道の総延長はたしか600kmを超えていなかったですか。700km。600kmというか700kmですか。橋本市内

の市道を走れば東京に行ってしまうというぐらいの距離を、橋本市の市道として橋本市は持っているんですけども、その市道を修繕していくというか、市道をつくるにも莫大なお金がかかってここまで総延長来ていると思うんですけども、今、全国的にも問題になっているのは、じゃあその維持管理、先ほど部長にも答弁いただきましたけども、補修とかではなくて、修繕という意味合いではなくて、もっと長く使えるようにどんどん先行投資をしていかなければならないといった国の流れもあって、いろんな補助対象も今ついてきているとは思いますが、僕、ここで質問の一番意図したかったことは、もう3番の項目まで行きたいんですけども、やはり今の予算規模で、先ほど1億5,000万円別枠でというお話もあったんですけども、そういった確かに非常に大金やと思います。本市の財政状況から鑑みても、非常に補助対象になってありがたいお金もあるし、非常に大きいお金が付いているとは思いますが、現状で対応できるかと言われると、僕はちょっとしんどいんじゃないかなと思うんです。やはり、今の優先順位の付け方もそうですし、行政の考え方というのは当然やと思うんですけども、やはりもうちょっと、その予算をもう少し別枠で考えて、複数年計画をちゃんと立てて、順を追って計画を立てて補修・修繕していくというふうにしないと、イタチごっこになりかねんと思うんです。

例えば、よく気づく地域の方は行政に声が届くけども、例えばちょっと遠慮がちな方の地域は声が届かない、ちょっと言えへんかった、実は壊れてから直してほしいんやみたいな話が出てきたりだとか、その辺は行政主導で計画を持って、複数年計画をちゃんと表に出して地域的な要望に添えていくというのは非常に大事やと思うんですけども、その辺、

そういったことを実行していくというのは、やはりお金がかかるんですけども、担当課だけの予算では非常に難しいと思うんです。やはりそれは、本市全体で考えていかなければいけない問題だと思うんですけども、その辺については副市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（石橋英和君）副市長。

○副市長（清原雅代君）先ほど部長のほうからご答弁させていただいた中で、現在、長寿命化計画を立てております都市公園、市営住宅、道路橋梁の部分につきまして、それ以外のものも含めてなんですけれども、別予算枠として1億5,000万円以内ということでお答えをさせていただきました。これは、本市の将来的な財政状況を考えた中で、それに充てていける予算として、これぐらいが今のところ目いっぱいかなと。いろんな社会的要件、状況によって、またいろいろ変わってくるとは思いますが、現時点ではこれが精いっぱいかなというところでの予算でございます。

これは、当然に単年度でのめどではございますが、ただ、その工事等によりましては、この予算では立ち行かなかったり、いろんな種類のそういった長寿命化の工事について、一つだけでこれ以上の金額が要ってくる可能性もございます。それを、平準化させた考え方の中でこれだけということで、あるときはこの倍ほどが要るかもわかりませんが、そのときはほかの年度でその金額を調整していったり、工事の内容を調整していくという考え方の中での予算でございます。

この計画につきましては、今回の委員会の中でも、こういった計画があるということを経済建設委員会の中でご報告をさせていただく予定をしておりますので、詳細についてはそのときにお話をしたいと思っております。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）副市長、すいません。ちょっとお金のことやったので、副市長に答えてもらおうかなと思って、唐突ではありますがすけども振らせていただきました。

本市の財政状況から鑑みても、1億5,000万円という予算を付けていただいているというのは、非常にありがたいんですけども、ただ、やはり先ほどの舗装の話もそうですけども、地域の中の方も正直、行政、橋本市がそんなに今お金があるとは思ってないです。だから、地域の方も非常に我慢されているし、まあ使えるんやったら、まだ走れるんやったら、別に舗装やり替えてもらわんでええよとおっしゃられる方もたくさんおられるのはわかるんですけども、やはり、そういったも耐久年数というのにも限度がございます。その中で、橋本市としても計画を立てて、随時、舗装なり何なりの補修をしていかなければいけないというのは、実際目前に迫って来てますので、やはり複数年計画を立てて、ある程度の道筋をつくって、お金がないというのでそれをしないのではなくて、計画自体は立てていくべきやと思うんです。

予算規模が、今、副市長おっしゃったみたいに、今後どうなるかというのもわかりませんしね。計画も立てにくいとは思いますが、ある程度の道筋はつくっていかないと、結局は本当に歯抜けの状態、まあ言うたら、だましだまし補修していくみたいな形になっては、地域の方で、いやいやうちとこは全然できてないやというお声も多く聞かなければならんようになってしまいますので、計画を立てて地域の声をできるだけ吸い上げて、その中で優先順位をきっちり付けていただいて、やるべきことはやるという形をとっていただきたいということと、それと、やはりお金のことになりますけども、補修していくには、やはり今後、莫大なお金がかかってくる

ということも踏まえて、何らかの形で別枠で予算を組んでいくというのも、もちろんそんな余裕ないのはわかっておるんですけども、わかっていながら質問さしてもうとるんですけども、でも、それぐらいしないと、本当にこの問題というのはどんどん先送りになってしまいますので、難しい問題やとは思いますが、自分自身どうしたらええんかなというのもわからなりに質問しておるので、じゃあ、岡議員、どうしたらええんよと言われてたら、自分も答えには困ってしまうんですけども、ただ、今本当にこういったことをやっていかんとあかん時期に来たんやなと思ったので質問さしてもらいました。

要望になりますけども、やはり複数年計画、そして今後の予算規模をちゃんと考えていただいて、実行できる範囲は何なんやというのを明確にしていくという作業は必要やと思うので、その点はしっかりやっていただけたらありがたいです。

以上です。

○議長（石橋英和君）21番 岡君の一般質問は終わりました。